

# みなみ保育園の保育について

令和3年7月27日更新



## 『保育理念』

私たちは、ゆったりと安心して過ごせる環境を整え、子どもたちが生き生きと育ち、みんなの笑顔があふれる保育を目指します。

## 『基本方針』

1. 子どもが安心して過ごせる環境をつくり、一人ひとりの心に寄り添った保育をする。
2. 豊かな心とからだ、人として生きる力を育てる。
3. 家庭と協力し、子育てを共に行う。
4. 子育て家庭への支援を行う。
5. 地域に拓かれた保育園づくりをする。

## 『保育目標』

こころとからだが元気な子  
ともだちといっぱい遊べる子



2歳児クラスのお月見コーナー

## ◎保育環境

各保育室に4つのコーナー、園庭をひとつのコーナーとして考え、子どもたちに必要なコーナーを5つとして、環境設定を行っています

①絵本コーナー・・・くつろげる場所でじっくり絵本が読めるように工夫をしています。柔らかな素材のもの（クッションやまくらなど）を置いたり、絵本コーナーを設置する場所も部屋の入口付近にはしないなどの配慮もしています。



②ごっこ遊びのコーナー・・・再現遊びができることを大事にし、家庭と同じような道具を準備しています。食事にかかわる道具、お世話をするための人形、見立て遊びができる素材や道具を配置しています。細やかな手の動きが難しい年齢には大きな鍋を用意するなど、成長発達に合わせて、ままごと遊びの道具も考えています。



③積み木遊びのコーナー・・・積み木は年齢ごとに豊かな遊びを展開するために必要な個数を考え、各クラスに配置しています。みなみ保育園では基尺が揃い、重みがちょうどよく、安定した積み上げができるWAKU-BLOCK45のHG1とHG2という2種類の大きさの積み木を使用しています。子どもたちが作ったものを家族に見せたいという気持ちにも応えられるよう、お迎えがくるまで作品を残してあげられるように、各クラスで工夫をしています。



④その他のコーナー・・・子どもたちの年齢に合わせて、その他の遊びのコーナーを設けています。低年齢のクラスなら手指を使った遊びができるものを置いたコーナー、3歳児以上のクラスでは自由に制作ができるようなコーナー、またどのクラスにも音の出るものや楽器などを置き、手に取れるようにしています。



⑤園庭・・・園庭では、子どもたちが想像力を膨らませ、それぞれの好きな遊びに没頭することができるよう、環境構成を行っています。

生き物と出会い、採集ができたり、栽培や収穫が経験できるような環境を構成するために花壇で遊びの素材となるような植物を育てたり、小さな畑やプランターで作物を育てられるようにしています。花壇もそれほど広いスペースではありませんが、花を育ててみたことで、蝶々が飛んで



きたり、バツタなども沢山見つけられるようになり、虫捕りも楽しめるようになりました。また、自分たちが考えて、ごっこ遊びの場や身体を動かせる環境を作れるよう、可動式で子どもたちが持ち運べるような遊具として、バスマットやコンテナ、お風呂用の椅子を用意しています。



### ◎発達過程

各年齢ごとに発達に合わせた関わりを行って過ごしていますので、公開保育の中で発達過程につきましては理解を深めていただきたいと思います。

### ◎担当保育制

みなみ保育園では0・1歳児クラスでは子どもと保育士との愛着関係を大切にし、担当制保育を行っています。子どもたちの生理的欲求を敏感に感じ取り、それを満たすことで子どもたちが大人との愛着関係を築き、人への基本的信頼を培うことができるように日々の関りを大切に保育を行っています。

### ◎保育士の援助

子どもの思いを尊重した応答的な保育を行うために年齢ごとに関わりの工夫をしています。子どもたちの発する言葉だけではなく、行動やまなざしなどからも子どもの気持ちを読み取れるように丁寧な関わりを心がけています。

また、みなみ保育園では子どもたちが主体的な学びができることを大切に考えているため、子どもたちの興味や関心を探り、環境を整えることで子どもたちの自発性を引き出したり、子どもたちが自分で考え、行動する姿を援助するように保育士が関わりをもっています。

### ◎乳児の保育

#### <0歳児クラス>

0歳児クラスは6名の園児が在籍しています。0歳児と1歳児クラスではコンサルで受けたアドバイスをもとに子どもたちに一人一体ずつのお人形を用意しています。子どもたちが大好きな人の愛情を感じ、お人形を大事にする気持ちが芽生えるよう、保護者の方にお問い合わせをしてスタイを作っていただいています。また、コーナー設定を行う上での基本のポイントを押さえ、くつろげるような場所をつくったり0歳児クラスでは発達に適した玩具を手作りし、それを子どもの発達の状況を見極めて、入れ替えをしたりしています。

0歳児クラスでは保護者との連携も極めて大切になってきますので、連絡帳やクラスだより、送迎時での保護者との会話の中で、子どもの育ちに対しての伝え合いなどを行っています。

#### <1歳児クラス>

1歳児クラスでは8人ずつ2グループ編成で保育を行っています。グループの分け方は月齢順となっています。昨年度受けたコンサルの中で、細長い部屋の空間を、子どもや保育士が過ごしや

すく使うためにはどうしたら良いのかということ学び、現在は限られたスペースの中でも子どもたちが発達に適した遊びを行うことが保障できるように環境設定の工夫を行っています。子どもたちの状況に合わせて、個別的な配慮が必要な児に対応をしたり、子どもたちが保育士との愛着関係をしっかりと築き、安定して過ごせるように関わりの工夫をしています。

## <2歳児クラス>

2歳児クラスは9人と9人のグループに分けた2グループ編成で保育を行っています。日常の関わりのなかで子どもが安心できる居心地のいい空間をつくることを大切にしています。それぞれの子の集中を邪魔しないよう、声の大きさ、音の大きさは、その子だけに聞こえる大きさを心がけています。また、生活に必要な事（食事、午睡の準備や片付けなど）がわかるよう、全て子どもの前で行い、興味を持ったら一緒に行うなどし、主体的な生活ができるようにしています。

遊びの中では、子ども同士の関わりや発想を大切に、先導せずに寄り添いながら遊びの発展をひきだせるような関わりをしています。子ども同士の意思がぶつかり合う時には、第三者的に両者の気持ちを代弁し、お互いの気持ちを知らせるようにしています。「とられちゃったね、返してって言うてみたら?」「これほしかったね。でも〇〇くんが持っていたから貸してって言うてみたら」などの声掛けをし、貸すか、貸さないかは大人が判断をせず、まずは、両者が自分の気持ちを相手に伝えることができるようにしています。子どものタイミングで自分で納得して貸せるように、子どもと一緒に待つようにしています。

生活の中でも、集団遊びでも、簡単なきまりを守ることで、楽しく心地よくなることを感じられるようにきまりを伝えています。



## ◎幼児の保育

### <3歳児クラス>

#### 3歳児クラスで収穫した野菜

3歳児のクラスの定員は45名、22名ずつの2グループ編成になっています。4月でクラスがスタートする際には新入園児や転園児が半数以上と多く、1人ひとりの発達の姿や新しい生活への期待や不安に寄り添い、安心して過ごせる生活の場や保育士との関わりを保障できるように配慮をしました。子ども一人ひとりのやってみたい、おもしろそうだな、という興味や関心を見逃さず、その時に合った保育士の関りや遊びを経験できるように生活の場を整えるようにしています。3歳児は周りの環境に興味を持ち、関わろうとする気持ちが大きく育っていく時期です。友達と関わろうとする姿や周りの物を不思議だなと感じたりする気持ちも大切にしています。子どもたちと植えた向日葵と一緒に育て、種がとれる様子を観察したり、途中で茎が折れてしまったときにも保育士が片づけるのではなく、どうするかを子どもたちと一緒に考えるなどして、子どもたちの考えや思いを聞き取るということを大切にしています。

#### <4歳児クラス>

4歳児クラスの定員は45名。21名ずつの2グループ編成になっています。

子どもたちの自ら成長する力を保育士や周りの大人が子どものペースに合わせて引き出していけるような関わりを心がけています。子ども自身が遊びや生活の中で“おもしろいな”“たのしいな”“どうしたらできるんだろう”“またやってみよう”と自らが考えたことを実際に取り組んでみるができるよう、保育士が援助ができるような関わりを大切にしています。

子どもたちが興味を持ったことを保育士が拾い上げていくことで、お化けごっこが広がりをみせたこともありました。子どもの興味を遊びにつなげることの大切さも子どもたちの様子を見てみるとよくわかります。またそうした関わりは行事への取り組みにもつながっています。また、一つ一つの行事の後には大きい子たちへの尊敬や憧れの気持ちを持つ子が多いので、それを大事にしながら自然な形での異年齢との交流へとつなげています。

#### <5歳児クラス>

5歳児クラスの定員は45名。21名ずつの2グループ編成になっています。

生活の中で自信を深めて、安心して自分の考えや思いを伝え自己発揮ができるような場をつくるための工夫をしています。子どもたちが気づいたこと、考えたこと、感じたことをたくさん伝え合う経験を重ね、「伝えあう」ことから「話し合い」へと発展させていくことができるような援助を保育士は心がけています。子どもたちは自分の意見を聞き取られるという経験を通して行事などにも自分たちの意見を反映させながら、意欲的に取り組むという姿が見られるようになってきました。自分たちのやりたいことを実現させるために、子どもたちは想像力を膨らませ、いろいろなアイデアを思いついたり、意見を出し合ったりします。そうした子どもたちの主体的な活動が日ごろから行えるよう、保育士は子どもの意見に常に耳を傾けられるようにしています。